

# 校長室からこんにちは！

No. 4

9月5日

発行者 中田 禎二

## 「当たり前」の輝き

カターのトップを切って9月1日に2学期がスタートしたドーハ日本人学校。嬉しいことに、初日からこれまでと変わらぬ学びの姿が随所に見られています。

これも、新学期が始まる前に、保護者の皆様が子どもたちの気持ちを勉強モードへと切り替えてくださったお陰だと推察いたします。ありがとうございます。

授業の始めと終わりの号令、「お願いします」の声、無言の清掃、両手・両膝をついての拭き掃除、集合時の姿勢等々、これらのことは新年度の最初から日々継続されています。

しかし、この「当たりの徹底」は小規模校だからできるというようなものではありません。本校では常に教師が正に子弟同行で行っているからこそそのそれだと言えます。そして、その中で培われる教師と子どもの関わりの結果が、決して派手ではないけれども、本校の強みとして存在しています。例えるなら線香花火のようにとでも言えましょか、2学期もこのことを本校教育活動の「売り」として、日本の公教育を行ってまいります。

夏季休暇はいかがでしたか。始業式の日の子どもたちの表情を見ていると、それぞれの夏と様々な思い出づくりがあったことを垣間見る思いがして、家族の絆の大切さを感じているところです。その一端が紹介される「夏休み発表会」を楽しみに、その準備の様子が見たい気持ちが逸ります。先日ご案内を差し上げました通り、ぜひ12日（木）にはお越しいただき、子どもたちの成長をご覧ください。

御心配をおかけしております周辺工事の進捗状況ですが、先日、週間程度の遅れの連絡がありました。…早期の完了が望まれるところです。

2学期からも、子どもの夢を育むために、心と身体にしっかりと貯金をしてまいりたいと思います。皆さまどうかご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 校長写真館



始業式で聞いた校歌が耳に残り、通勤途上でつい、ワンフレーズを口ずさんでいました。

良い詩です。よいリズムです。校歌は共に学んだ者たちの、共通の宝です。

## ちょっとお耳を…

この夏の思い出。それは、故郷広島で過ごしたこと。8月6日を迎えたこと。

日本で暮らしている時には「当たり前」と思っていた日常が、海外で生活してみるとどれだけ有り難いか…を感じる事ができたこと。

もう一つ感じたこと、それは、日頃できない経験ができる長期休暇の大切さ。

教師にとっても、そのゆとりの産物は必ずや子どもへの指導に活かされることと思う。